

国史跡 桜井古墳

桜井古墳公園



福島県南相馬市教育委員会



公園利用案内

国道6号南相馬市立総合病院前交差点から車で3分

所在地：南相馬市原町区上茨佐字原畑地内

問合せ先

南相馬市教育委員会 文化財課

〒975-0062

福島県南相馬市原町区本陣前一丁目70

TEL 0244-24-5284

FAX 0244-24-1288

<http://www.city.minamisoma.lg.jp/bunkazai/bunkazai.jsp>

Email:bunkazai@city.minamisoma.lg.jp

 この印刷物は再生紙を使用しています。

桜井古墳と桜井古墳群



復元整備された桜井古墳

桜井古墳は古墳時代前期に造られた古墳で、桜井古墳群の中でも最も古い古墳です。桜井古墳はその古さと大きさから、桜井古墳群の中心的存在といえます。

桜井古墳群では古墳時代中期になると古墳の数が少なくなりますが、古墳時代後期になると、桜井古墳の周囲に多数の古墳が造られ、桜井古墳群が形成されたと考えられます。

指 定：昭和31年(1956)11月7日

追加指定：昭和63年(1988)6月13日

所 在 地：南相馬市原町区上渋佐字原畑66-1外

面 積：8,285.45㎡

形 状：前方後方墳

指定理由：古墳時代前期(4世紀後半)の築造で、東北地方では出現期の古墳であること。当時、前方後方墳の発見例は全国で20数例のみで、国内最北・東北地方最大の前方後方墳だったため、国の史跡に指定されました。

管理サービスゾーン

管理サービスゾーンには駐車場やガイダンス施設トイレがあります。ゾーンの中央にある円形広場からは桜井古墳公園の全体を見ることができ、古墳についての学習をすることができます。ゾーンの南側にある管理棟では、シロ君・ユリちゃん、そして桜井古墳の主であるサク君が桜井古墳の発掘調査で解ったことや桜井古墳が作られた時代について教えてくれる「桜井古墳の今と昔」を見ることができます。

桜井古墳ゾーン

桜井古墳ゾーンでは国指定史跡桜井古墳を復元整備した場所です。ゾーンの中心には造られた当時の姿に再現された桜井古墳があり、西側の林には直径20mの円墳である上渋佐2号墳と発掘調査で新たに発見された1号土塚墓を整備しました。

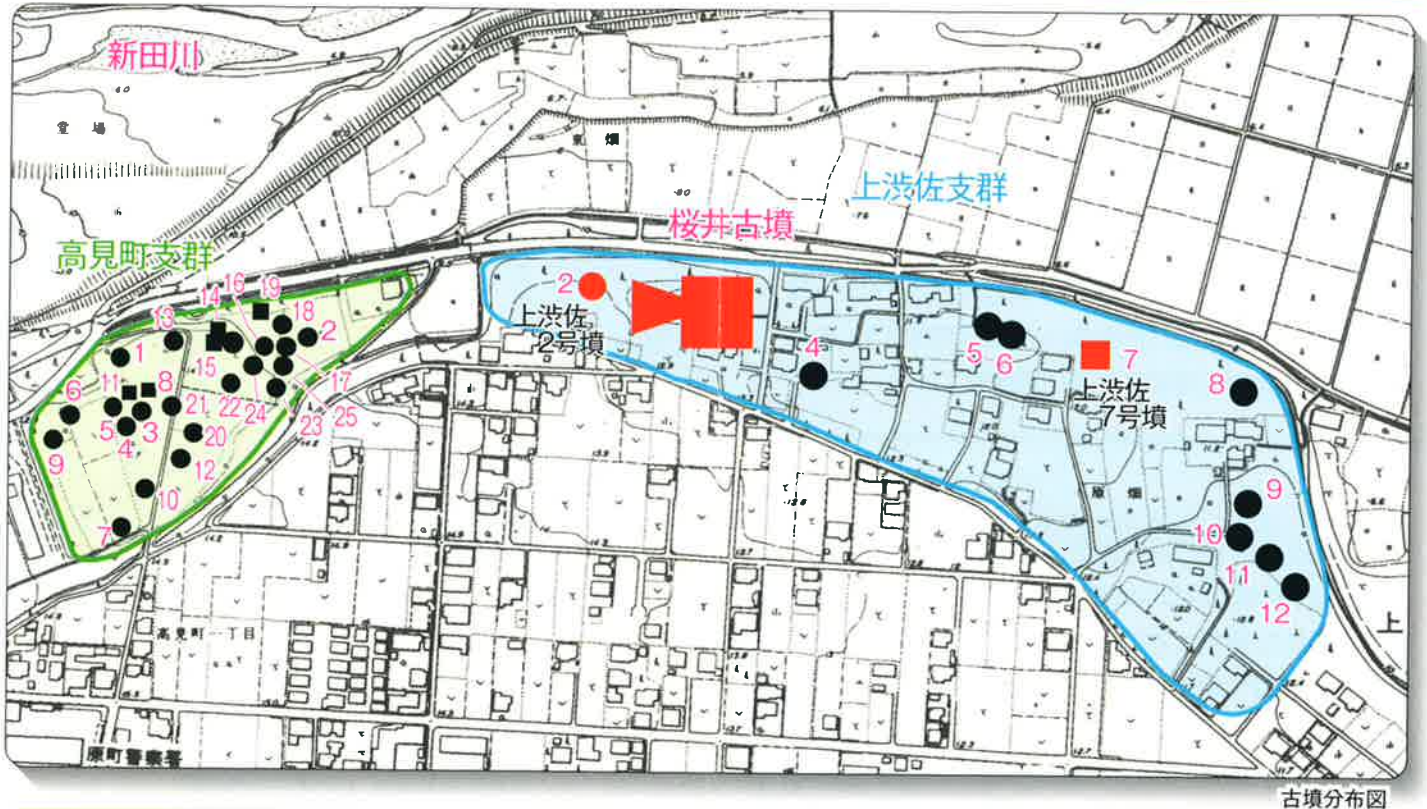
また、ゾーンの南側には江戸時代に造られた野馬土手があり、復元された野馬土手と現在まで残されてきた野馬土手を見ることができます。

上渋佐7号墳ゾーン

上渋佐7号墳ゾーンは桜井古墳公園の東側に200mほど離れた場所にあります。ゾーンの中心には東北地方では最大級の方墳である7号墳が復元整備されています。林の中にたたずむ上渋佐7号墳の発掘調査では東北地方では出土数の少ない銅鏡が出土しました。



桜井古墳群・古墳分布図



古墳分布図

桜井古墳が立地する新田川南岸の河岸段丘縁辺には、東西約900mに渡って大小37基に及ぶ古墳などの埋葬施設が確認されており、桜井古墳群と呼んでいます。

桜井古墳群は段丘上を流れる小川を境とし、東側は桜井古墳を含む上流佐支群、西側は高見町支群によって構成されています。上流佐支群には前方後方墳1基(桜井古墳(1号墳))、方墳1基(7号墳)円墳9基(2・4～6・8～12号墳)、墳丘も周溝も持たない土壇墓1基(1号土壇墓)により構成されています。

高見町支群には前方後円墳1基(15号墳)、円墳20基(1～7・9～10・12・13・16～18・20～25号墳)、方墳1基(19号墳)、墳丘も周溝も持たない埋葬施設5基(割り抜き石棺3基(1号墳第3主体部・8号墳・11号墳)箱式石棺2基(1号墳第2主体部・14号墳))によって構成されています。

現在は畑の開墾・宅地化が進み、墳丘が消滅した古墳も多く、当時、この地区には相当数の古墳があったと推測しています。



桜井古墳の壺

桜井古墳からは土器の底に穴のあいた壺が出土しました。底には壺を作るときから穴があいており、古墳にお供えるために作られたと考えられます。

桜井古墳の年代と被葬者

桜井古墳は、長さ74.5mの大型前方後方墳であることが解りました。長さ74.5mの大きさの前方後方墳は東北地方で4番目の大きさになります。

発掘調査では壺が出土しました。出土した壺は4世紀の終りに作られたものであることから、桜井古墳が造られた時代も4世紀の終わり頃と考えられます。

桜井古墳に埋葬された人は、東北地方でも4番目に大きい前方後方墳を造ることができた人物で、現在の南相馬市周辺を治めていた有力な豪族だったと考えられます。



調査中の桜井古墳

棺の埋葬

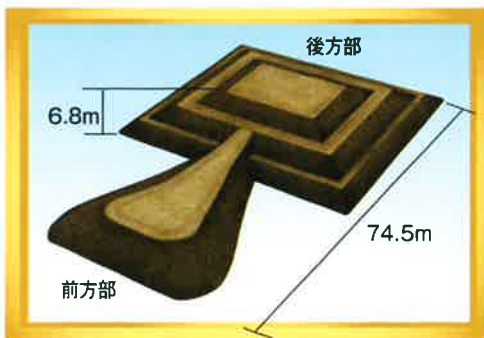
発掘調査では陸橋と墓道が発見されました。陸橋と墓道は棺を古墳に運ぶときに使われた道です。棺は古墳の外から陸橋を通り前方部に運ばれ、前方部から墓道を通って古墳に埋められました。陸橋は前方部の南角、墓道は後方部の西斜面にあります。

桜井古墳の棺

桜井古墳の頂上には2つの棺が埋葬されています。埋葬された棺は木製の割竹形木棺で長さが7mにもなります。木棺は古墳の頂上に2つ並べて安置されています。

割竹形木棺(わりたけがたもっかん)

丸太を割り貫いて作った木製の棺。棺の形が竹を縦に割ったような形をしていることから、割竹木棺と呼ばれている。



桜井古墳復元図

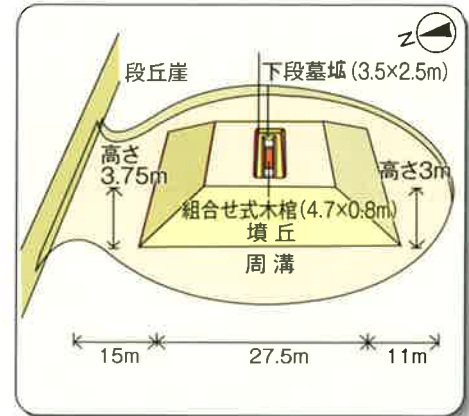


木棺復元CG

7号墳 (市史跡)



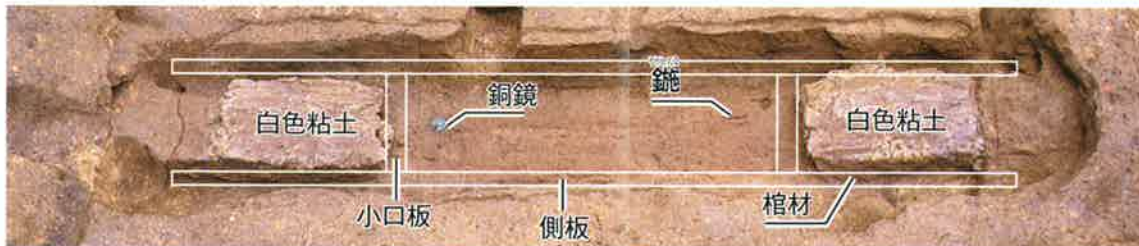
復元整備された7号墳



7号墳復元図

指 定: 平成12年(2000)2月1日
所 在 地: 南相馬市原町区上渋佐字原畑73外
面 積: 3,803㎡
形 状: 方墳
指定理由: 古墳時代前期の築造で、東北地方では出現期の大型の方墳であること、東北地方で出土例の少ない銅鏡が出土したことなどから、市の史跡に指定されました。

7号墳は1辺27.5m・高さ3.3m(北側で3.75m・南側で3m)の方墳です。周溝は全体に不整形です。墳丘平面の直下に墓塚が2段に掘り込まれていました。棺は組合せ式木棺(板材を組合せた箱型の棺)で、下段墓塚の底に置かれ、棺の両端には大きな白色粘土の塊が据えられていました。棺の中からは赤色顔料(水銀朱・酸化鉄)が検出されました。



棺の痕跡

年代と被葬者

2段墓塚は北陸地方の前期古墳にみられる特徴です。棺の両端に長大な粘土塊を据える組合せ式木棺も東日本では非常に珍しく、出土した土器の特徴から4世紀後半のものと考えられています。7号墳はこの時期に桜井古墳群で最初に造られた古墳と考えられます。

7号墳に埋葬された人物は、北陸地方とも交流を持った新田川流域の有力な豪族だったと考えられます。

遺物

銅鏡(珠文鏡)1面・鏃1本、土師器(二重口縁壺・小型鉢・高杯・器台)(墳頂部出土)



布に包まれた銅鏡



銅鏡X線写真

上渋佐7号墳出土銅鏡(市指定有形文化財) 面径8.7cm
 珠文が二重に巡る珠文鏡です。南相馬市博物館に展示してあります。